

教育振興運動推進事業

自治体名

岩手県雫石町

震災後の地域の状況・仮設住宅数

当町は内陸中央部に位置しており、津波浸水等の被害はなかったものの、ため池堤体の亀裂や、停電に伴う生乳の冷却停止・集荷不能による廃棄等、酪農関係での被害が大きかった。(仮設住宅数:0)

<取組名> ～ 本の楽しさを伝えあおう！ 親子読書のつどい ～

取組概要

実施形態 (該当に○)	自治体単独実施	団体等との連携実施	大学との連携実施	(連携している団体等・大学の名称)
		○		雫石町教育振興運動推進協議会
実施主体・ 場所等	コーディネーター数	ボランティア延べ人数	年間実施日数(回数)	活動場所
			1	雫石町中央公民館

活動内容

※該当する内容に○

学校支援	学習支援	部活動指導	美化・環境整備	登下校指導	学校行事・その他
					()
学校と地域の 協働学習	復興学習	防災教育	伝統文化・芸能	職業体験・キャリア教育	イベント・行事・その他
					()
放課後等支援	学習支援	体験・交流活動	遊び・スポーツ	児童クラブとの連携	その他
					()
家庭教育・ 保護者支援	家庭教育講座	親子参加行事	サロン・相談対応	家庭訪問相談	その他
	○	○			()
地域課題に応じた 学習・交流	高齢者支援・世代間交流	心のケア・健康管理	生活再建・地域づくり	地域人材育成	その他
					()

「親子読書のつどい」

日時:平成26年11月8日(土) 9:00～11:40

場所:雫石町中央公民館・図書館

町内から 65 人の子どもたちと保護者・地域の方々、スタッフなど合わせて約 140 人が、本の読み聞かせ、昔語り、クイズ大会などを通じて、本の世界を楽しみました。今回のスペシャルプログラムは、プロのストーリーテラー・古屋和子さんに「カナダのお話し イヌイットのおはなし」を語っていただきました。ユーモアあふれるおはなしに子どもも大人も引き込まれていました。

町内中高生の皆さんもスタッフとして参加し、日頃の練習の成果を発揮しました。



取組の変遷

準備段階

◇被災による課題

- ・ 岩手県内陸西部に位置し奥羽山系の山岳や高原が総面積の大部分を占める本町では、東日本大震災による大規模災害は発生しなかった。しかし、岩手山の火山活動や土石流災害等、過去にはさまざまな自然災害が発生している。
- ・ 平成 25 年 8 月 9 日の大雨により、町内各地で河川がはんらんし、家屋等の浸水・農地や道路の冠水・崩落が発生し、甚大な被害を受けた。このことにより、町民の自然災害に対する不安は一段と高まっている。

◇住民等からの要望・必要な取組

- ・ 各種メディアの発達や少子高齢化等、子どもたちを取り巻く環境は近年急速に変化している。本町の児童生徒においても、メディアと接する時間の増加や世代間交流・自然体験活動の減少等が課題となっており、地域ぐるみで解決を図る必要がある。

体制づくり・取組の実施

◇協力を呼びかけた団体・関係者、役割分担

雫石町教育振興運動推進協議会が実施する各種事業により、「子ども・親・学校・地域・行政」が下記の役割と責任を果たしながら、町民総ぐるみの子育て環境づくりを進めた。

- 〈子ども〉積極的に学習に取り組む。
- 〈保護者〉子どもとの対話時間を作る。
- 〈先生〉5 者の話し合いの場を設ける。
- 〈地域〉地域行事を開催し、積極的な参加を促す。
- 〈行政〉積極的に教振推進会議等へ係わるとともに、講習会を開催する。

◇取組の充実や課題解決のための工夫

- ・ 実践区ごとに推進委員会を開催(10 実践区)
- ・ 子育て講演会の開催(4 地区)
- ・ 各地区での世代間交流会等の実施
- ・ 親子読書のつどい(読み聞かせ、講習会、クイズ大会)
- ・ 教育振興運動実践交流会(講演会、活動発表・実践報告(2 校))

成果・課題や今後の展望

◇これまでの取組による成果

- ・ 町内各実践区において、地域ぐるみの実践活動(子育て環境浄化の取り組み)が着実に推進されている。
- ・ 子育て講演会等を通じて、多くの町民に「親子の触れ合いの大切さ」について、周知・啓発をすることができた。また、親子読書のつどいでは、親子で読書の楽しさを味わうとともに、家庭における読書活動推進について意識を高めるとともに、子どもの読書活動について地域全体で考える貴重な機会となった。

◇復興に資する内容としての数値的達成の成果

- ・ 町内4地区で開催した子育て講演会には、のべ 157 名の保護者・町民が参加した。また、親子読書のつどいには、140名の親子・町民が参加した。
- ・ 教育振興運動実践交流会には、町内各実践区、各行政区、町老人クラブ連合会、町婦人会、地域関係者等 330 名が参加し、運動の在り方とメディアとの関わり方について理解を深めることができた。
- ・ 上記の他にも、各地域での体験活動や世代間交流等に多くの町民が参加し、地域ぐるみで子どもたちの育ちを支える仕組みづくりと、学びを通じた地域コミュニティの構築を促進することができた。

◇課題や今後の展望

- ・ 今後も、子どもたちが置かれている現状を捉えつつ、より地域に根ざした運動を目指し、継続して取り組んでいく予定である。